

和水ガイド 子ども目線で

和水町の小中学生6人が、町の祭りやお薦めスポットを紹介するガイドブックを作成した。子どもたち自身で取材し、執筆。大人のアドバイスを受けながら、子ども目線を取り入れた仕上がりとなっている。



完成した和水町のガイドブックを持つ「なごみ子ども出版社」のメンバー（菊池川流域の恵み体験協議会提供）

地元小中学生の「出版社」制作 祭り、お薦め商店 密着取材

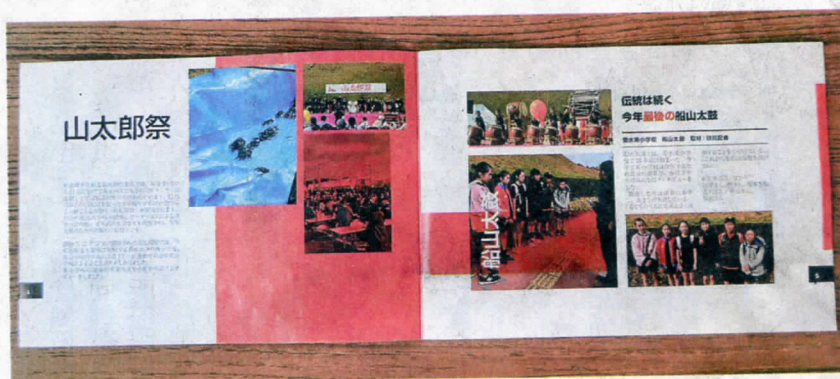
子どもたちに地元の良さを知ってもらい、自分で考える力を身に付けてもらおうと、同町と、菊池、山鹿、玉名の3市1町の地域づくり団体などつくる「菊池川流域の恵み体験協議会」が初めて企画した。

仮想の「なごみ子ども出版社」を設立し、募集に応じた当時の小学5年から中学2年の6人が「編集者」として参加。昨年10月から今年1月まで月2回ほど集まり、入社式や企画会議など実際の出版社さながらに制作を進めてきた。

企画の発案者で、兵庫県でデザイン会社代表を務めていた同協議会の三次浩美さん(55)＝同町＝が指導。執筆作業は、熊本学園大経済学部学生らが支援した。

ガイドブックのメインは、昨年11月に同町で開かれた「山太郎祭」。「ステージで演奏された旧菊水東小の「船山太鼓」や、会場近くの江田船山古墳を案内する「子どもガイド」を密着取材し、紹介。祭りでは振る舞われる山太郎ガネ（モクスガニ）の仕掛け網漁を別

和水町の小中学生が作成した同町のガイドブック



話を聞くなど、手分けして内容をまとめた。子どもたち行きつけの商店なども掲載した。

「取材は緊張したけど、カニの捕り方など初めて知ることがたくさんあって面白かった」と、ガネ

漁を担当した三加和申3年の池田暁春さん。祭りの歴史を調べた菊水中3年の柳原拓巳さんは「文章をまとめるのに苦労したが、アド

バイスを受けて書き上げられた」と振り返る。

3月に完成したガイドブックはA5判、20ページ。千部印刷し、町内の小中学校や3市1町の役場や観光施設に配ることにしている。

表紙のイラストや写真撮影を担った菊水中3年の砂川昌葉さんは「自分たちで取材した内容やイラストが本になってうれしい」と満足げ。3人は「ガイドブックが和水町の魅力を知るきっかけになれば」と口をそろえる。

指導した三次さんは「初めてのことでかなり大変だったと思うが、子どもたちに頑張ってもらい、無事完成できて良かった。別の季節の内容も制作したい」と話している。

同協議会は本年度、菊池市と玉名市でも子どもたちの手によるガイドブック作成を予定している。

（長濱星悟）

クローズアップ